



第23回今庄そばまつり

今庄そば食入て良し、打つて良し

5月23日、恒例の今庄そばまつりが、今庄365スキー場で開かれました。そば店は、各集落や地域、団体が出店する21店が軒を連ね、自慢の材料と趣向を凝らしたそばやダシを用意し開店。訪れた人たちは、店ごとに少しずつ異なる味わいのそばを堪能しました。また、そば打ち体験では、おいしいそばを作ると、家族連れらがこね方やのばし方、切り方などの指導を受け、慣れない作業に苦労しながらも、楽しそうに挑戦していました。



辰巳渚さん講演会

いじも手伝いありがとうー！

5月28日、消費行動研究家でベストセラー作家の辰巳渚さんが今庄小学校を訪れ、全校児童と保護者を対象に「子どもを伸ばすお手伝い」と題し、講演を行いました。辰巳さんは「普段どんなお手伝いをしていますか」と質問。児童らが「おそっこ」「お皿洗い」と答えると「そのときどき思いますか」と今度は保護者へ質問。「手伝ってくれてうれしい。ありがとう」との照れくさそうな答え。「お手伝いには皆さんを成長させる力がある。家族のため、自分のため、役割を決めて楽しく続けよう」と話し、児童と保護者お互いにお手伝いの大切さを考える良い機会となりました。



南越前町子育て支援シンポジウム

親、先生、地域…一体となって子育てを！

6月5日、南条文化会館で、子どもが心身ともに健やかに育つことのできるまちづくりを進めようと南越前町子育て支援シンポジウムが開かれ、子育て中の保護者ら約200人が参加しました。シンポジウムでは講演会とパネルディスカッションが行われ、子育てには、親と先生の役割が大切であることに加え、地域全体で支援していくことが重要と力強く語られました。参加者らは「親だけでなく地域の愛が必要」「地域の子どもたちには、わが子と同じ愛情をもって接していきたい」「おはよう」「ごっつらっしゃっ」など声かけをしていきたい」と、地域でできる子育てについて真剣に考えていました。



高齢者保養事業

仲間と過ごす楽しいひととき

5月31日から7月8日にかけて、各地区で65歳以上の方を対象に、町内の温泉施設を利用して日頃の疲れを癒し、楽しいひとときを過ごしてもらおうと、高齢者保養事業が行われています。



6月9日、今庄365温泉やすらぎで行われた今庄地区には78人が参加しました。歌やじゃんけん遊びなどで脳を活性化させ、認知症予防に効果のある音楽療法を体験した後はお楽しみ会の昼食会。参加者らはおいしいお弁当を食べながら、気の合う仲間と昔話に花を咲かせたり、カラオケをしたりと、思い思いの時間を過ごしました。



アカタン砂防堰堤群・西高倉堰堤保全活動

歴史遺産美しく守ろう

5月30日、古木地係と瀬戸地係にある国の登録有形文化財「アカタン砂防堰堤群」と「西高倉堰堤」で、田倉川と暮らしの会や高倉谷川堰堤の会の会員ら町内外から約50人が参加し、保全活動が行われました。堰堤周辺の草刈りや散策路を歩きやすくするための整備などを行った参加者らは「先人の遺した歴史遺産を美しく守るため、より一層保全活動に励んでいきたい」と話しました。自然の景観に溶け込んだ石積みみの堰堤は、明治時代に土砂災害を防止するため築かれたもので、現在は自然学習や都市住民との交流の場となり、多くの人が訪れています。

ホタルの郷講演会

環境とホタルを守って町おこし

5月30日、宅良公民館で、ホタルの郷講演会が開かれました。これは、今庄地区に数多く生息するホタルを活用し、地域活性化に結び付ける「ホタルの郷づくり推進事業」の一環として開かれたもので、約40人が参加しました。福井県ホタルの会顧問の草桶秀夫さんが、ホタルの好む環境やホタルの生態、ホタルを活かした町おこし事業の実例を紹介。「自然環境への理解を深め、生態調査や観察会などホタル保護の活動を通してホタルの魅力を感ずることは、感動を生み、人づくりや町づくりにつながる」と話すと、参加者らは環境保全の大切さとホタルを活用した町おこしなどについて理解を深めました。



第14回河野うめまつり

今年も良質河野ウメ人気上々

第14回河野うめまつりが、6月12日、13日の両日、河野シーサイドパーク駐車場で開かれ、約2,500人が訪れました。

今年は、寒い日が多く、ウメの収穫量は減少しているものの、粒は大きく肉厚で良質とのこと。会場では、収穫したばかりの「紅サシ」が販売され、安く買い求める人たちにぎわいました。そのほか、梅干しや梅ジュースなどの加工品、イカ焼き、サバ焼きなど新鮮な海の幸も人気を集めていました。また、会場イベントでは、梅干しを試食して、その種をどこまで飛ばせるかを競う「うめぼしのたね飛ばし長距離王決定戦」や、塗り箸を使い、青ウメを隣の入れ物に1分間でどれだけ移せるかを競う「青うめ早つまみ競争」が行われ、次々と子どもから大人まで挑戦。訪れた家族連れらは、初夏の海を眺めながら、河野の特産品を味わい、ウメにちなんだゲームを楽しみました。



近くの生産農家の梅園や町営梅園を会場に行われた、まつりの目玉ともいえる恒例の梅もぎ体験には、141人が参加。参加者らは「河野のウメは果肉がたっぷりで、おいしい」「偶然、チラシを見て初参加。梅干しにするのが楽しみ」「10年ほど前から毎年来ています。実の数は例年より少なそうだけど、やっぱりいいウメですね」などと話し、鈴なりに実った直径4cmほどの青ウメを、傷が付かないようひとつずつ丁寧に摘み、カゴいっぱい収穫していました。